

持分法適用関連会社の異動に関するお知らせ

～Mahindra Sanyo Special Steel Pvt. Ltd.
の連結子会社化～

ご説明資料



“特殊”だけど“身近”な「特殊鋼」



山陽特殊製鋼株式会社



<http://www.sanyo-steel.co.jp>

目次

I . Mahindra Sanyo Special Steel Pvt. Ltd. (MSSSPL) の概要

II . MSSSPL連結子会社化の背景と目的

- ① MSSSPLの現状
- ② インドの市場環境
- ③ 子会社化の狙い
- ④ 将来の目指す姿

I . Mahindra Sanyo Special Steel Pvt. Ltd. (MSSSPL) の概要

Mahindra Sanyo Special Steel Pvt. Ltd.の会社概要

- 所在地 : インド マハラシュトラ州 コポリ
- 設立 : 1962年(合併事業開始 2012年)
- 売上高 : 91億ルピー(2016年度 約155億円)
- 売上数量 : 約12万8千t/年(2016年度)
- 従業員数 : 963名(2016年度)
- 事業 : 特殊鋼製品の製造、販売
- 主な製品 : 圧延品、鍛造品、鋼塊、素形材



※コポリ(Khopoli) : ムンバイから南東に約70km

Mahindra Sanyo Special Steel Pvt. Ltd.の会社概要

現行の出資比率

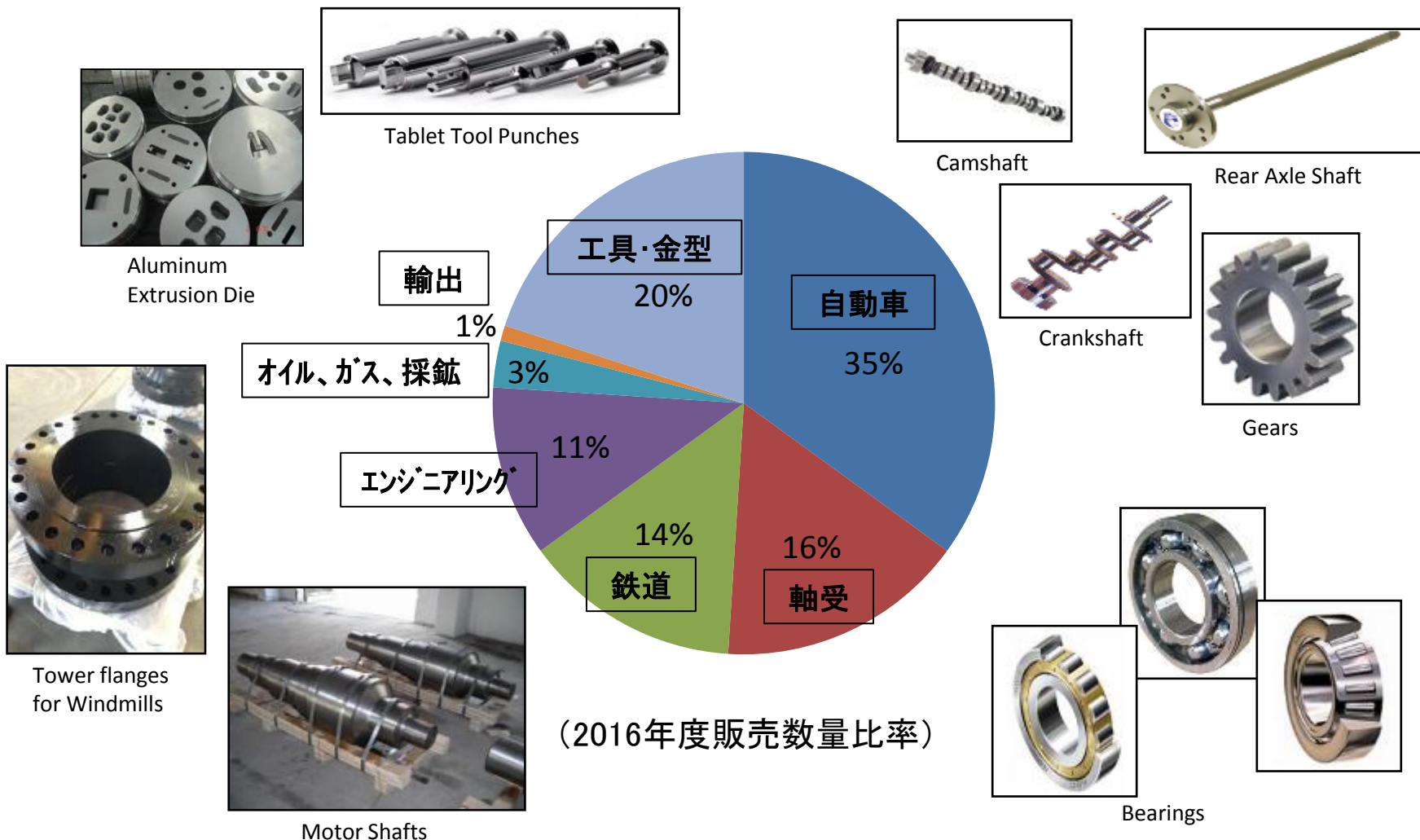
- Mahindra & Mahindra Ltd. 51% (経営全般・操業の責任)
- 山陽特殊製鋼株式会社 29% (技術支援)
- 三井物産株式会社 20% (マーケティング支援)

(参考)Mahindra グループの概要

- ・本社 : インド ムンバイ
- ・設立 : 1945年
- ・連結売上高 : 8,898億ルピー (2016年度 約1兆5千億円)
- ・連結従業員数 : 約18万人
- ・主な事業分野 : 自動車、二輪車、農機、情報技術、インフラ、金融、システム、防衛等

※100ヶ国、110の企業集団にわたる多国籍企業

主要用途と販売構成



Ⅱ . MSSSPL連結子会社化の背景と目的

- ① MSSSPLの現状
- ② インドの市場環境
- ③ 子会社化の狙い
- ④ 将来の目指す姿

① MSSSPLの現状

これまでの取組み

- 当社は、これまで持分法適用関連会社であるMSSSPLに対して、品質改善、コスト低減、生産性向上等の技術支援を実施してきた。
(2012年9月～2018年3月末予定)

- ・品質改善 : 精錬等の改善による清浄度の向上
- ・コスト低減 : スクラップ配合や鍛造パスの適正化による電力消費削減
- ・生産性 : 製鋼、圧延、検査等の各工程の能力拡大

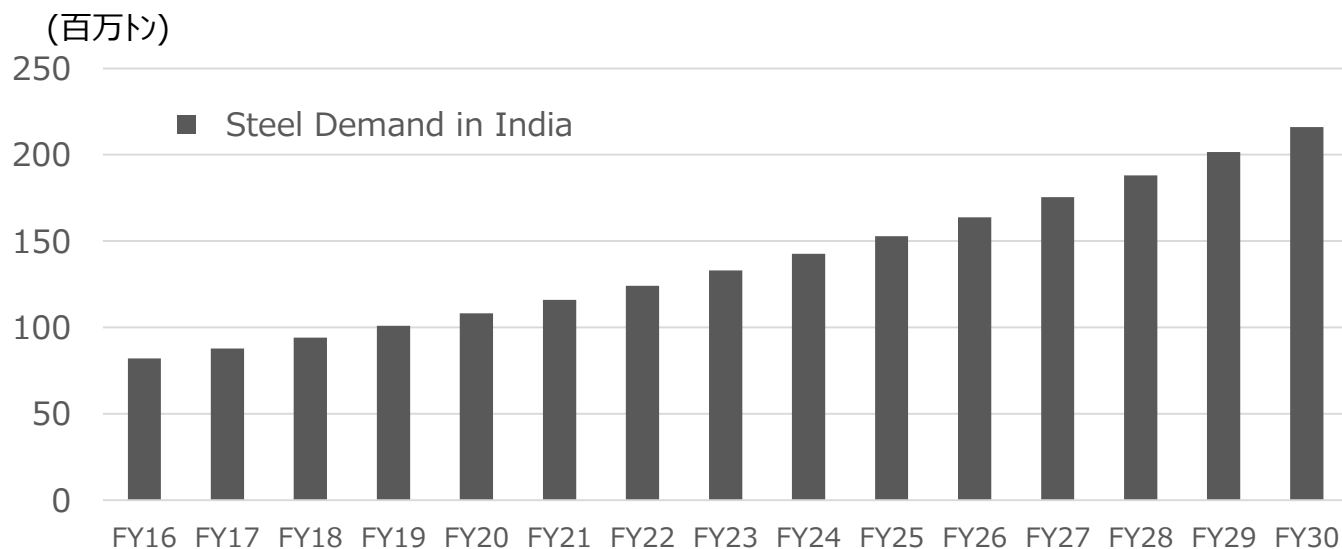
MSSSPLの現状

- 鋼材の清浄度は、インド国内トップレベルの水準まで向上。
- 日系顧客向け販売比率の増加も含む、売上規模の拡大。

② インドの市場環境

インドの鉄鋼需要

- 現在の約1億t/年から、2030年には、2億t/年に達すると見込まれている。



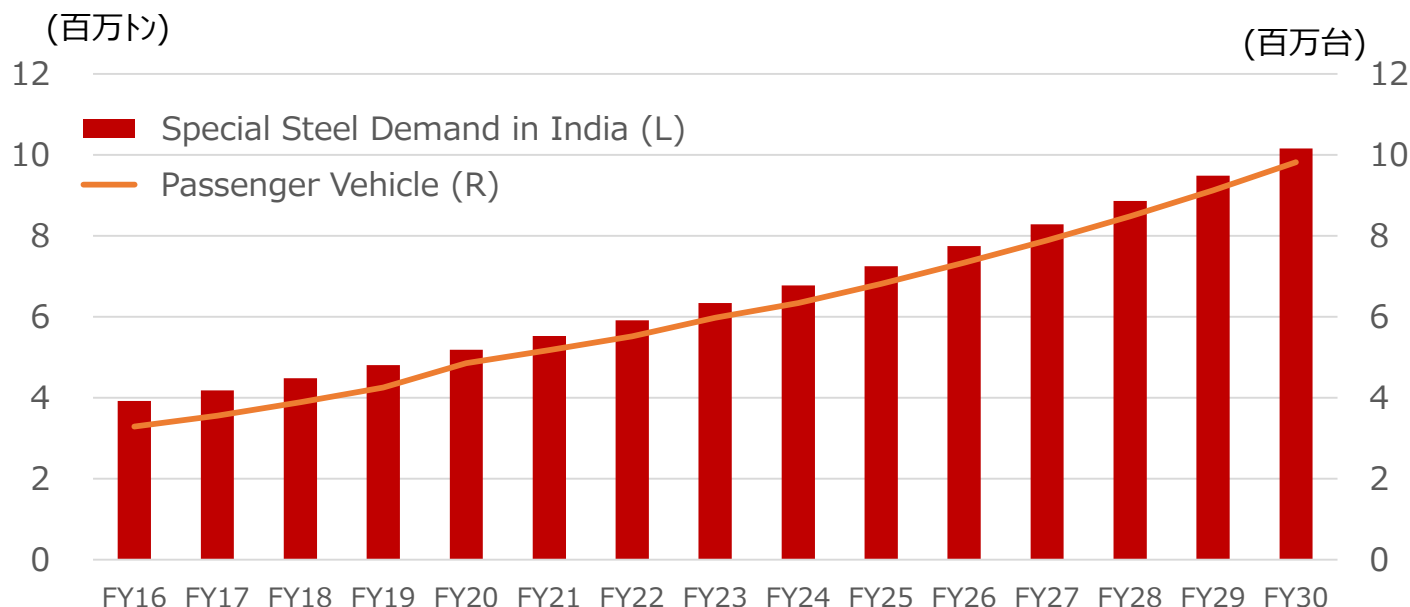
source :Ministry of India

② インドの市場環境

インドの特殊鋼需要

- 現在の約400万t/年から、2030年には1,000万t/年まで拡大し、現調化ニーズも含め、顧客の品質要求も高まると見込まれる。

(インドの自家用車需要も、現在の約400万台/年から、2030年には約1,000万台/年への拡大が見込まれている。)



source :Research company Feedback / MSSSPL survey/ IHS

③ 子会社化の狙い

- 技術支援の枠を超えた、生産能力・品質・コスト競争力・営業活動等の全方位的な押し上げ。
- 日系も含む軸受大手や自動車大手など、グローバル企業のインド国内における現地化への対応の強化。
- 当社素形材事業の一拠点としての積極的な活用。
- 当社グループとしての企業規模の拡大。

③ 子会社化の狙い

子会社化した後の出資比率

- 山陽特殊製鋼株式会社 51% (現行29%)
- Mahindra & Mahindra Ltd. 29% (現行51%)
- 三井物産株式会社 20% (現行20%)

子会社化による同社の位置付け

- 国内外を含めて、姫路本社以外では初めてとなる
特殊鋼一貫製造・販売子会社。

④ 将来の目指す姿

- 山陽インド工場として、品質とコスト競争力でインドNo.1の特殊鋼メーカーとなり、現調化対応を含め、高信頼性鋼のニーズに応えていく。
- 鋼材・素形材の両面から、当社グループのグローバル展開を拡大する。

